

IBM i 2026

IBM i コンテンツ (2026年9月版)

IBM Power S1112 モデルと

新テクノロジー・リフレッシュ IBM i 7.6 TR2 / 7.5 TR8
のご紹介

日本アイ・ビー・エム株式会社
テクノロジー事業本部
IBM Powerテクニカルセールス

IBM Power S1112モデルと 新テクノロジーリフレッシュ IBM i 7.6 TR2/ 7.5 TR8 のご紹介

昨年登場したPower11シリーズに、この夏、待望のプロセッサグループP05のS1112モデルが発表されました。Power11プロセッサのおさらいと、このタイミングで出揃ったラインナップやS1112モデルの詳細を紹介します。

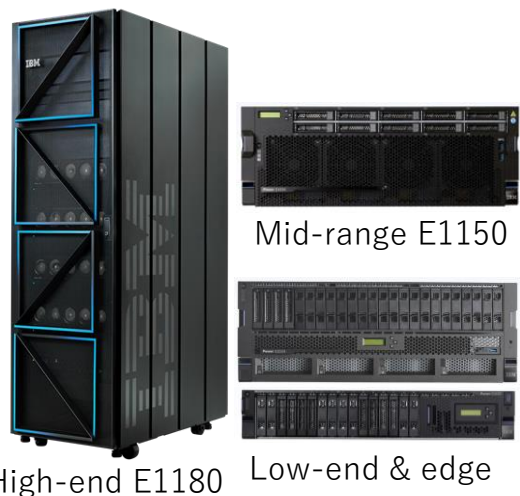
同じタイミングで、IBM i 7.5/7.6での新しいテクノロジーリフレッシュ (7.6 TR2/ 7.5 TR8) が発表されました。S1112モデル対応と併せて、さらに強化・機能拡張されたセキュリティーや新たな移行支援ツールなどが利用可能となりました。

今回は、IBM Navigator for iに追加されたセキュリティー機能の一つであるCVEインフォ機能をご紹介します。

目次

1. IBM Power11
2. IBM Power S1112詳細
3. IBM i 7.6 TR2, IBM i 7.5 TR8サマリー
4. テクノロジーリフレッシュの新セキュリティー機能を使ってみよう

Power11 イノベーション



Portfolio ハイライト

- シリアル番号の保持 – 投資保護
- PowerVS にPower11
8 Data Centers: 3 US, 2 EU、2 JAPAN、1 APAC
- 7から5への簡素化されたローエンドモデル
- 1ソケットフォームファクター–ハーフワイド、2倍のメモリ、25%のコア数
- 3つのオフリング層: high-end, mid-range, low-end
- socketあたり最大30 コア(50%増)
- 周波数を 4.4GHzに増加
- +5% シングルスレッドのパフォーマンス
- 最大45%システムレベルのパフォーマンス向上

Technology ハイライト

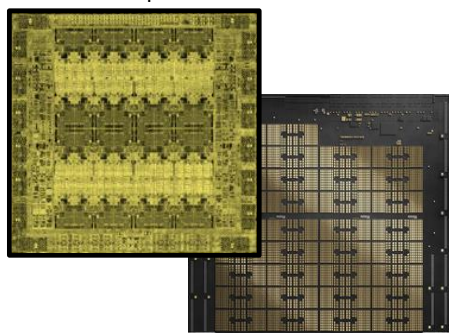
Hardware

- 2.5D Integrated Stacked Capacitor エネルギー効率向上
- 新しいヒートシンク技術により、最大35 %の電力向上を実現
- スペアコアによる可用性の向上
- OMI DDR5 バッファリングメモリテクノロジー – DDR帯域幅が3倍、容量が2倍
- Hypervisor スケジューリングの革新により、より高いシステム使用率でパフォーマンスの向上を実現

AI acceleration

- 128GB LPDDR5メモリを搭載した75Wカードあたり 300+ TOPS
- drawerあたり 256 個の AI 最適化コア (カードあたり 32 コア)
- システムごとに最大2つの drawers
- on-chip accelerationの最大10倍のパフォーマンス
- ターゲットを絞ったgraniteモデルのサポート、さらに追加する計画

Power11 processor

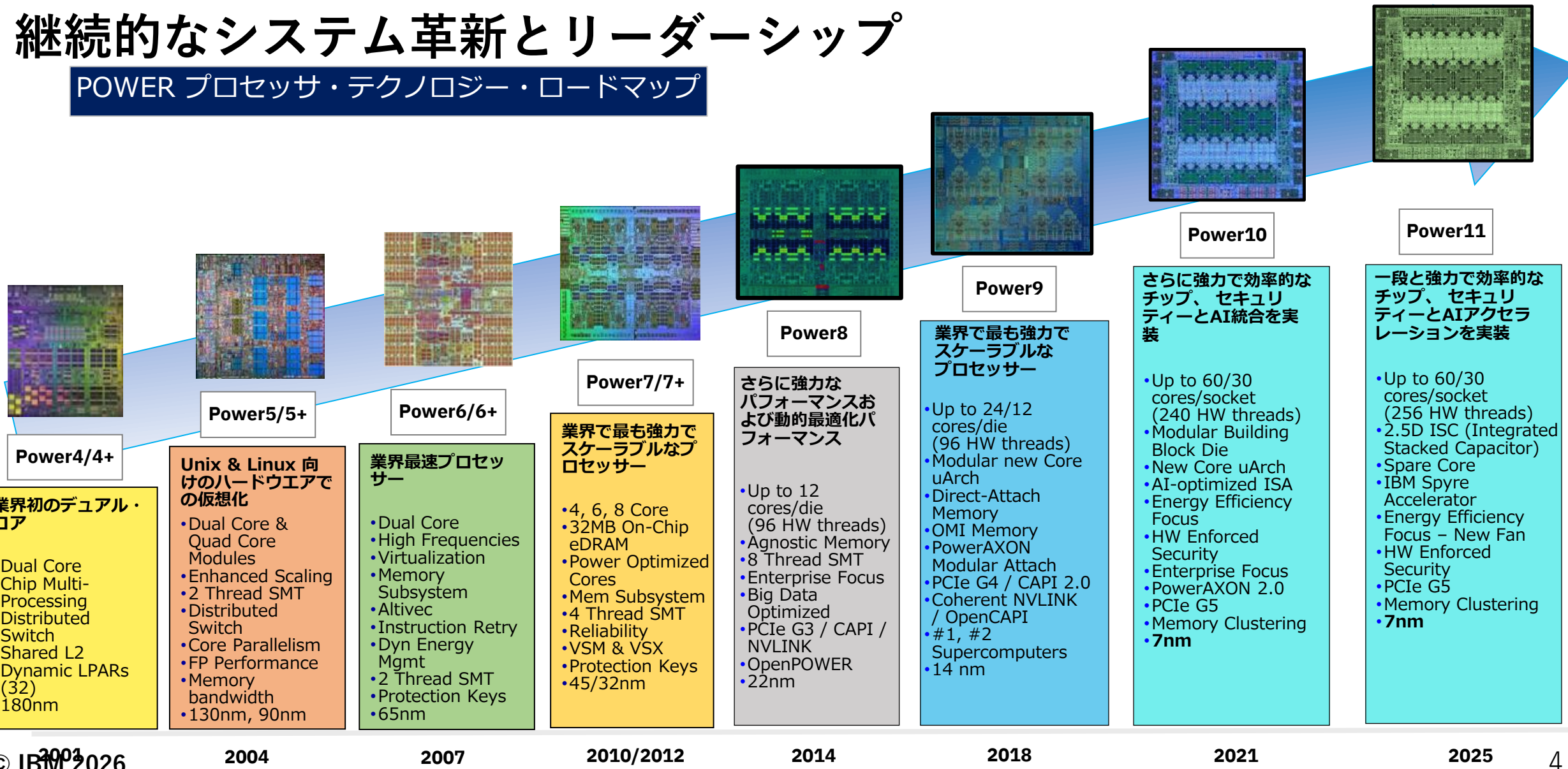


Spyre processor

IBM Power

継続的なシステム革新とリーダーシップ

POWER プロセッサ・テクノロジー・ロードマップ



IBM Power11 プロセッサ搭載 ラインナップ

エッジからクラウド・プラットフォームまで統一したイノベーション

SLAを損なうことなく消費電力を最適化する新しいエネルギー効率の高い動作モード

新しい2.5D統合スタック・コンデンサと革新的な熱技術により、消費電力を最適化

Resource Groupsによるワークロードの分離によるパフォーマンスの向上

3倍のDDR帯域幅を備えた次世代メモリーは、大量に消費する大規模なアプリケーションにパフォーマンスを提供

IBM Spyreをベースとした新しいオフチップAIアクセラレーションを実装

New



S1112



S1122 & L1122



S1124 & L1124



E1150



E1180



PowerVS

Edge

Core

Cloud

IBM i

IBM i

AIX

Linux

- 最大1-ソケット, eSCM, 2U, ハーフ幅ラック搭載、あるいはタワー型
- 最大 10 コア
- 4, 10 SMT8 コア/ソケット (10コアはラック搭載のみ)
- 4 DDIMM スロット
- 最大 512 GB メモリー
- 4 PCIe HHHL スロット (Gen4)
- 4 NVMe U.2 bays
- 最大 12.8 TB 内蔵ストレージ
- 2-ソケット, DCM/eSCM, 2U
- 最大 60 コア
- 16, 24, 30 SMT8 コア/ソケット (DCM)
- 4, 10 SMT8 コア/ソケット (eSCM)
- CUoDサポート (eSCM, DCM)
- PEP 2.0 (DCMのみ)
- 32 DDIMM スロット
- 最大 4 TB メモリー (DCM)
- 最大 2TB メモリー (eSCM)
- 10 PCIe HHHL スロット (8 Gen5)
- 8 NVMe U.2 bays
- 最大 122.4 TB 内蔵ストレージ
- L1122制限: Linux以外で利用可能最大 25% コア
- 1, 2-ソケット, DCM, 4U
- 最大 60 コア
- 16, 24, 30 SMT8 コア/ソケット
- CUoDサポート (CPU)
- PEP 2.0 (CPU)
- 32 DDIMM スロット
- 最大 8 TB メモリー (2ソケット)
- 最大 4 TB メモリー (1ソケット)
- 10 PCIe HHHL スロット (8 Gen5)
- 16 NVMe U.2 bays
- 最大 244.8 TB 内蔵ストレージ
- 内蔵RDXメディアベイ (オプション)
- L1122制限: Linux以外で利用可能最大 25% コア
- 2, 3, 4-ソケット, DCM, 4U
- 最大 120 コア
- 16, 24, 30 SMT8 コア/ソケット
- CUoDサポート
- PEP 2.0
- 64 DDIMM スロット
- 最大 16 TB メモリー
- 11 PCIe HHHL スロット (8 Gen5)
- 10 NVMe U.2 bays
- 最大 153 TB 内蔵ストレージ
- モジュラー・スケーラブル・デザイン
- 最大4ノード(5U)+コントロールユニット(2U)
- 16ソケット, SCM
- 最大 256 コア
- 10, 12, 16 SMT8 コア/ソケット
- CUoDサポート
- PEP 2.0
- 最大 64 TB メモリー
- 8 PCIe Gen5 スロット/ノード
- 10 NVMe U.2 bays
- 4 NVMe フラッシュ 7mm U.2 ベイまたは 2 15mm U.2 ベイ (ノードあたり)
- Power11と同時に提供開始

IBM Power S1112と IBM i 最新テクノロジーリフレッシュによる次世代IBM i基盤

Power11世代のラインナップ刷新と、IBM i 7.6 TR2 / 7.5 TR8の機能強化を一体で推進

1 インフラ刷新

Power11、最大512GB DDR5、最大12.8TB NVMe
IBM i / AIX / Linuxを支える1ソケット基盤
追加資源をAIX / Linux / AIにも活用
S1112はOracle Standard Edition2(SE2)対応

2 セキュリティー

MFA、暗号・CVE可視化、OAuth 2.0対応SMTPなど
日常運用と監査対応を強化

3 開発モダナイズ

Java 21、VS Code / Code for IBM i、REST API、
Db2 for i SQLサービスを拡張

4 運用改善

Navigator for i、ACS、仮想Ethernetの改善
Migrate While Activeによる移行支援

既存IBM i資産を活かしながら、セキュリティ、開発、運用、AI活用の準備を段階的に進める

IBM Power S1112 (9242-21B/21T) の発表

発表日 : 2026年7月14日
出荷開始日 : 2026年7月24日
レター番号 : [AD26-0122](#)

Power S1112 ハイライト

- 1 ソケット、2U ハーフサイズ
- 最大10個の Power11 SMT8 コア (4, 10 コア/サーバー) を提供
- 4基の DDR5 DDIMM スロットで最大 512GB のメモリ容量を実現
- メインメモリーの暗号化でセキュリティー強化
- 4 PCIe Gen4 HHHL スロット
- 最大4基の NVMe U.2 ベイで、最大 12.8TB のストレージを実現
- IBM i P05 システムでは、最大64GBメモリ、12.8TB NVMeストレージ
また、仮想CPU : 最大 4 コア、最大 4 区画
- RDX の搭載はなし
- I/O Drawer (#ENZ0)との接続が可能 (ラックのみ)
- セキュアブート
- ラックまたはタワー構成可能
 - 4コア : ラック、タワー
 - 10コア : ラックのみ
- EU エネルギー効率要件を満たす Titanium電源
- 2x 800W 110/220 VAC with C14 inlet
- Enterprise BMC 管理



サポート OS

- AIX 7.2 & 7.3 or later
- IBM i 7.4, 7.5 & 7.6 or later
- RHEL 9.6 & 10.2 or later
- RHOSP 4.22 or later
- SLES 15 & 16 or later
- VIOS 4.1.2.10, VIOS 4.1.1.30

IBM Power S1112 スペック

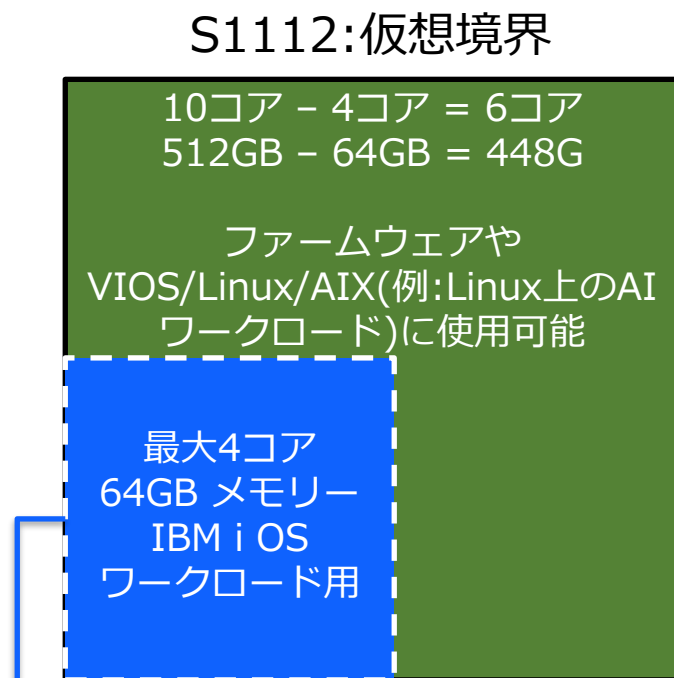
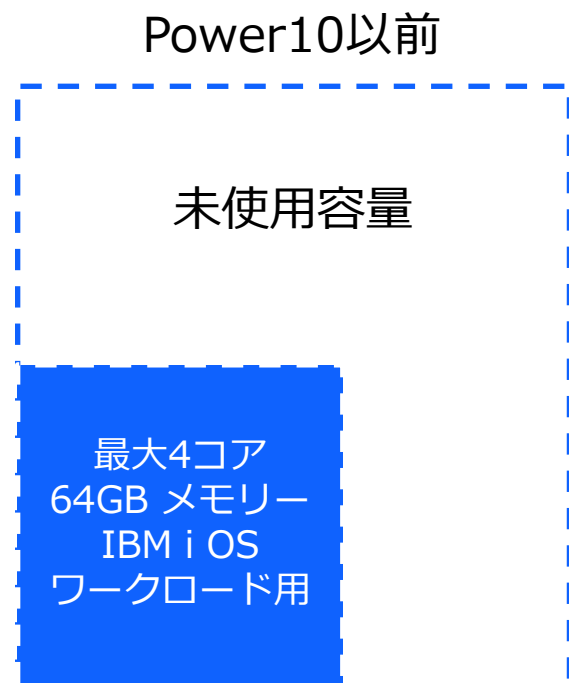


	S1112 MTM: 9242-21B/22T	
プロセッサ・モジュール	4-core Typical 3.6 to 4.0 Ghz(max) Power11 Processor(#EJMT)	10-core Typical 3.05 to 4.0 Ghz(max) Power11 Processor(#EJSV)
最大メモリー容量	512GB	512GB
最大内蔵ストレージ	最大 12.8TB（実効容量 6.4TB）	最大 12.8TB（実効容量 6.4TB）
PCIe スロット数	2 PCIe G4 x16 2 PCIe G4 x8	2 PCIe G4 x16 2 PCIe G4 x8
その他	タワー型/ラック型 両方選択可	ラック型のみ選択
I/O 拡張ドロワー	拡張 I/O ドロワー構成可 (ラック型のみ)	拡張 I/O ドロワー構成可

IBM Power S1112 IBM i 詳細

1. サーバーは4coreと10coreを選択可能
2. システム全体のメモリ制限はなく最大512GBまで構成可能
 - IBM i の区画は合計64GBに制限
3. 4coreを選択し、必要なコア数が少ない場合、最大3コアを非アクティブでの構成が可能
4. IBM i Solution Editionの適用可能(4core, 10core)

P05 で64GB以上の構成を設定した場合、
最大28%の有効メモリ向上を実現できます



IBM i 7.6 TR 2
IBM i 7.5 TR 8
IBM i 7.4 TR 12 with PTF

IBM i ワークロード

その他のワークロード

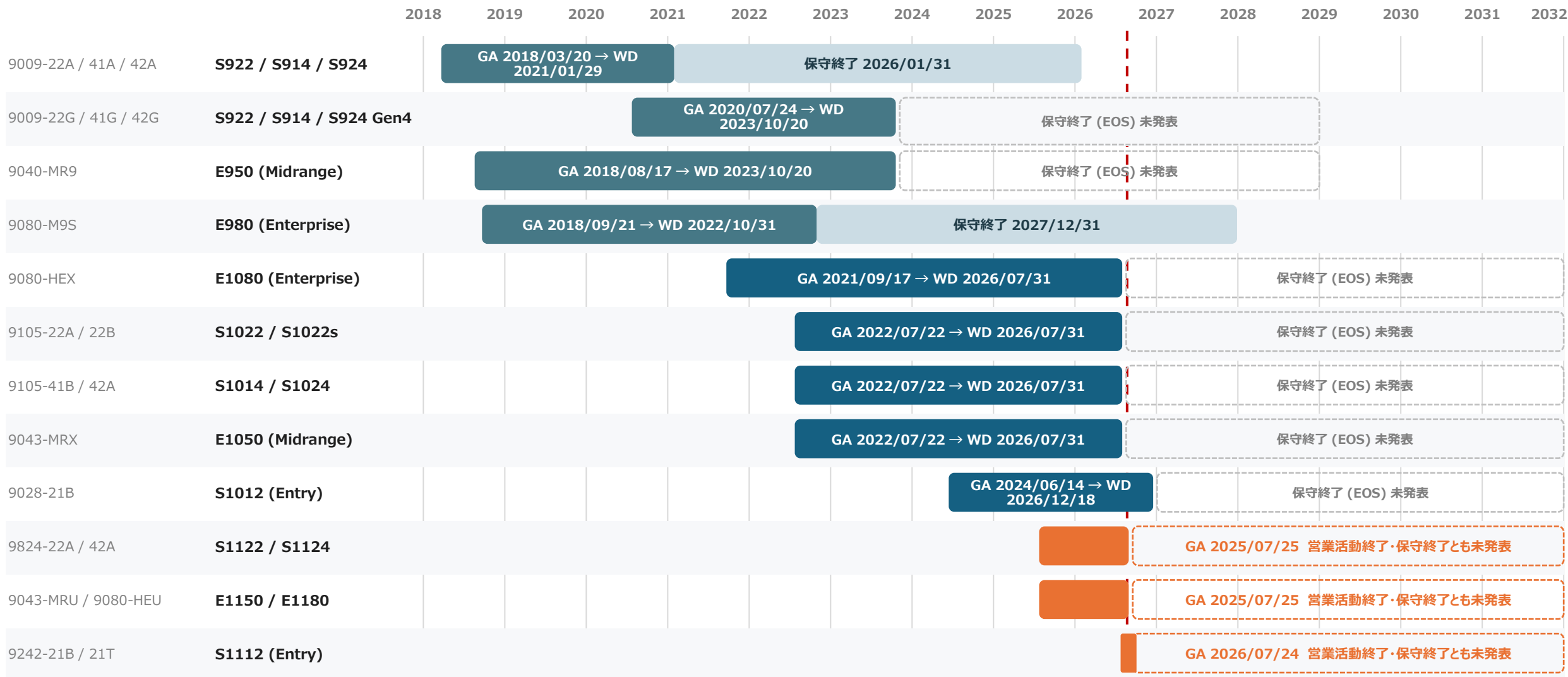
1. IBM i P05のライセンスは、最大4コアまでに制限されます
2. ファームウェアはIBM i のワークロードを4コアと64GBメモリ内に制限します
3. 最大4コアのVCPUを設定し、IBM i パーティションは4区画が上限となります
4. S1112の最大NVMeストレージは12.8TB(実効容量6.4TB)で、システム内のすべてのLPARで共有可能です
5. I/O Drawer (6スロットPCIeファンアウトモジュール)との接続が可能です (ラックのみ)

IBM i ソフトウェアグループ P05 モデル比較

	S914 MTM: 9009-41G	S1014 MTM: 9105-41B	S1012 MTM: 9028-21B		S1112 MTM: 9242-21B	S1112 MTM: 9242-21T
プロセッサ・モジュール	4 Power9 コア	4 Power10 コア	1 Power10 コア	4 Power10 コア	4 Power11 コア	4 Power11 コア
最大メモリー帯域幅	170 GB/s	204 GB/s 16, 32, 64GB DIMMs	102 GB/s	102 GB/s	256 GB/s	256 GB/s
DIMM数	16 IS DIMMs	8 DDIMMs	4 IS DIMMs	4 IS DIMMs	4 DDR5 DDIMMs	4 DDR5 DDIMMs
最大メモリー容量	64 GB	64 GB	64 GB	64 GB	64 GB	64 GB
PCIe スロット数	3 PCIe x16 G4 slots 5 PCIe x8 G4 slots	2 PCIe G4 x16 or G5 x8 slots 3 PCIe G5 x8 slots 1 PCIe G4 x8 slots	2 PCIe G5 x8 / G4 x16 2 PCIe G5 x8	2 PCIe G5 x8 / G4 x16 2 PCIe G5 x8	2 PCIe G4 x16 2 PCIe G4 x8	2 PCIe G4 x16 2 PCIe G4 x8
内蔵ストレージ用コントローラーのスロット	専用	汎用PCIe スロット	専用	専用	専用	専用
内蔵ストレージ	10 SAS HDD/SSD or 4 NVMe U.2 6.4TB	NVMe U.2, 6.4TB	2 NVMe U.2, 3.2TB	4 NVMe U.2, 6.4TB	4 NVMe U.2, 12.8TB	4 NVMe U.2, 12.8TB
RDX	1	1	1	1	-	-
I/O 拡張ドロワー	N/A	N/A	N/A	N/A	1/2 (6スロットPCIeファンアウトモジュール)	-
サービス・プロセッサ	FSP	Enterprise BMC (eBMC)	Enterprise BMC (eBMC)	Enterprise BMC (eBMC)	Enterprise BMC (eBMC)	Enterprise BMC (eBMC)
筐体	タワー/ラック (4U)	タワー/ラック (4U)	タワー	タワー/ラック (2U)	ラック	タワー
LPAR	可能	可能	1区画のみ	可能	最大4区画	最大4区画
IBM i ユーザー	10ユーザー単位、無制限	10ユーザー単位、無制限	10, 20ユーザー	10ユーザー単位、無制限	10ユーザー単位、無制限	10ユーザー単位、無制限

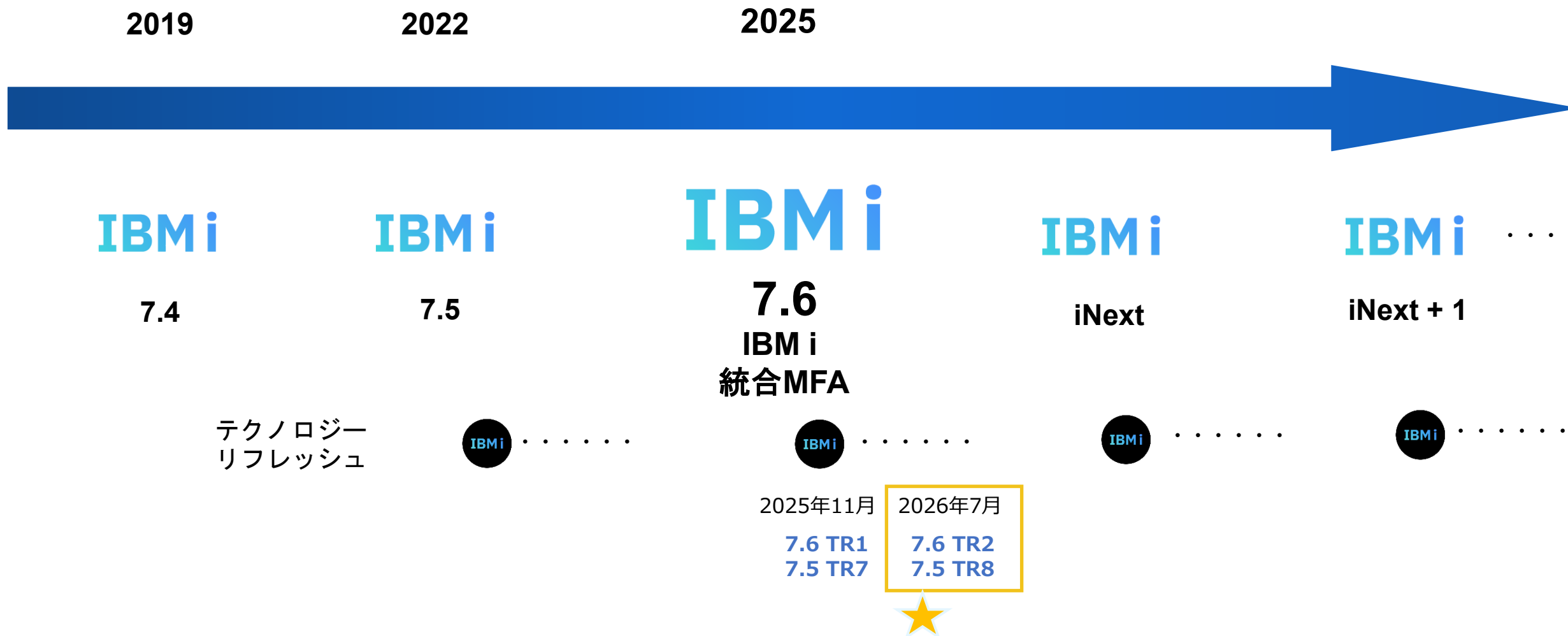
モデル別ライフサイクル（Power9 / Power10 / Power11 詳細）

モデル単位の GA → 営業活動終了（WD）→ 保守終了（EOS） ※2026年8月時点



現在

IBM i ロードマップ



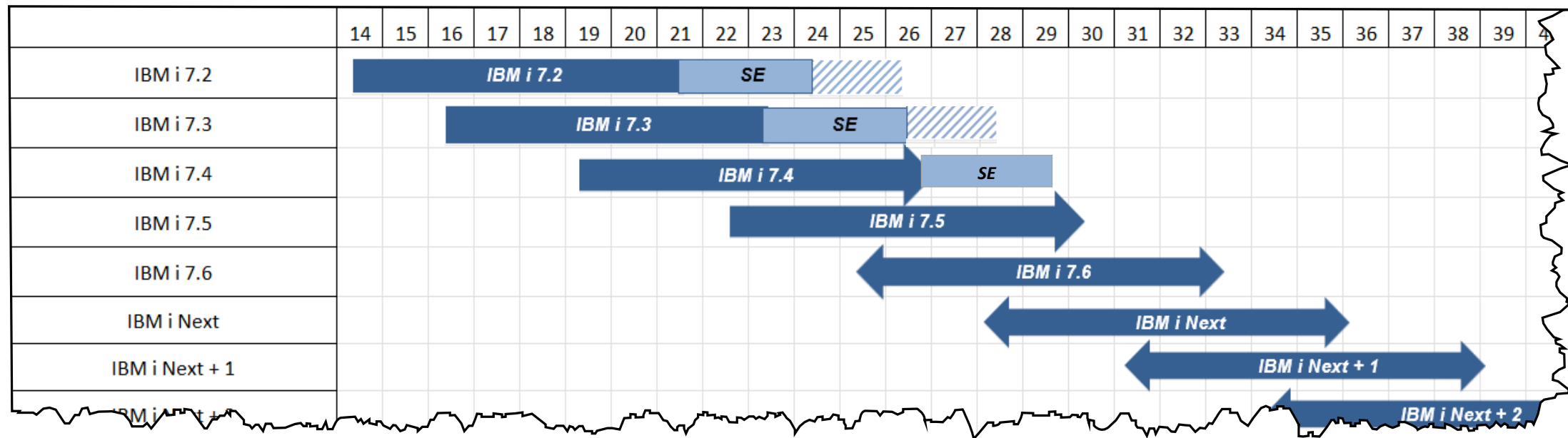
* IBMの将来の方向性および意図に関するすべての記述は、予告なしに変更または撤回される場合があります、目標および目的のみを表しています。

** 矢印は「進行中のステータス」であり、特定の日付を意味するものではありません。

IBM i サポート・ロードマップ

IBM i は、常に最新リリースの二世代先の計画を公開しています。目的はお客様の長期的なバージョンアップ計画をサポートするためです。他社の商業用OSでは、このような長期のロードマップは公開されていません。

- 下図は個々のリリースが予定されるサポート期間に関連しており、図の右端はIBM i プラットフォームの終了日ではありません。
- 右辺と下辺が破れていることからご理解いただける通り、IBM i 将来バージョンの開発計画はこのチャートの時間軸を超えて続いています。



* IBMの将来の方向性および意図に関するすべての記述は、予告なしに変更される場合があります。

** 矢印は「進行中のステータス」であり、特定の日付を意味するものではありません。

IBM i 7.6 TR2, IBM i 7.5 TR8

レター番号 : IBM i 7.6 TR2 : [AD26-0032](#)
IBM i 7.5 TR8 : [AD26-0033](#)
発表日 : 2026年7月14日
利用開始日 : 2026年7月24日

P05向けのPower11と拡張されたハイブリッドワークロードの柔軟性

Power S1112 for IBM i P05: エンタープライズの能力をエントリー環境に導入

- リソース利用率の向上を実現し、S1112上でIBM iを他のワークロード(Linux、AIX、VIOS)と連携
- ファームウェアが追加のメモリ上で動作できるようにすることで、IBM i ワークロードに割り当てられるメモリを増加
- IBM iと並行してLinuxベースのAIとオープンソースワークロードを有効化
- P05クライアントおよびISVの開発・テストに適したコスト効率の良いプラットフォーム

注:S1112とPowerVSはどちらもIBM i P05での利用が可能

サイバーリスクと計画的なダウンタイムの削減

セキュリティとビジネスレジリエンスの強化

- SMTP用のOAuth 2.0
- IBM Cloud Key Protect統合および強化されたマスターキー保護(IBM i 7.6のみ)
- クラスタリングのMFAサポート(IBM i 7.6のみ)
- Linuxコンソール向けのセキュアアクセスの設定が可能
- Db2 for i SQL サービス(セキュリティ)の機能拡張
- Migrate While Active Partition Mirroring 7.6 サポート
- Migrate While ActiveにおけるOSアップデート
- BRMSのウェブインターフェースの強化

モダンな開発とイノベーションの加速

モダンなアーキテクチャ、開発者ワークフロー、AI対応のイノベーションを可能にする

- Java 21のサポートと最新のツール
- Code for i、VS Code 統合、REST API の機能拡張
- SQL、自動化、観測可能性に関するDb2 for i の機能拡張
- RPG開発のためのRDSの強化

より効率的な運用

業務の簡素化と効率の向上

- リリースレベルのCVE可視性
- 分析やAIのためのリレーショナルテーブルとして公開されたジャーナルデータ
- Electronic Service Agent (ESA) Cloud Call Home supportの改善
- IBM Navigator for i と ACS の機能拡張
- 仮想イーサネットマルチキューのサポートによるCPU利用率とスループットの向上

- 常に新しいSQLサービスを提供しています。現在では400以上あります。
- IBM Bob Premium Package for i は、IBM i 上でSQLサービスを発見し利用できます。

テクノロジーリフレッシュの新機能を使ってみよう

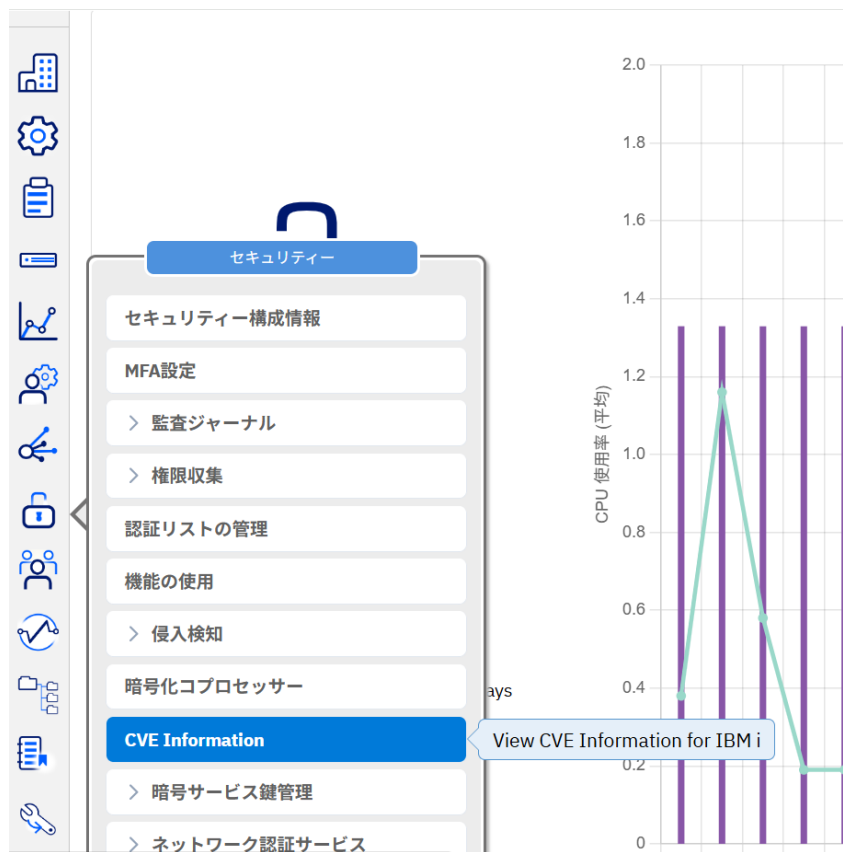
- 今回のテクノロジーリフレッシュでも多くの機能が追加されており、特にセキュリティー機能が向上
- IBM Navigator for iでは、今回新たに追加された”CVE_INFO テーブル関数”を利用し、セキュリティー対応状況を一覧表示することが可能になりました
これにより管理者は複数環境の脆弱性状況を一元的に把握し、優先的に対応すべき問題を迅速に判断可能となります
- Db2 for i 内から直接、脆弱性の深刻度、公開日、影響を受ける製品、IBM サポート URL を関連付けた CVE データをその場で照会できるようになりました
この機能追加により、SQLベースの監視サービスに組み込んだり、監査対応レポートを作成するなどが可能となります
- 前提条件として、CVE_INFOテーブル関数を使用するには、インターネット経由で IBM セキュリティー速報検索サービスへのアクセスが必要となります

IBM セキュリティー速報検索サービス

<https://www.ibm.com/support/pages/securityapp/api/search>

テクノロジーリフレッシュの新機能を使ってみよう

- CVEインフォメーションはNavigator for iのセキュリティー・メニューから実行可能
- IBM i 7.6システムで実行すると、V7.6が関連するCVE情報が直近の日付でソート
- 他のNavigator for iと同様にフィルター機能があるので、CVE Scoreで”Critical”など緊急度が高いCVEのみ検索することが可能
- IBM Support Pageのリンク先には個別PTF情報の確認も可能



IBM Navigator for i

CVE Information

アクション

CVE ID ↑↓	Title ↑↓	IBM Support Page ↑↓	CVE Score ↑↓	製品 ID ↑↓	IBM i Release ↑↓	Modification Date
フィルター	フィルター	フィルター	フィル	フィル	フィル	フィルター
CVE-2026-18341	IBM i is Affected By Buffer Overflow Vulnerability [CVE-2026-18341]	https://www.ibm.com/support/pages/node/7286094	Medium	5770SS1	7.6	2026-09-02
CVE-2026-18221	IBM i is Affected By Improper Authorization and Authentication Vulnerabilities in DDM / D RDA [CVE-2026-18175, CVE-2026-18221]	https://www.ibm.com/support/pages/node/7286186	High	5770SS1	7.6	2026-09-02
CVE-2026-18175	IBM i is Affected By Improper Authorization and Authentication Vulnerabilities in DDM / D RDA [CVE-2026-18175, CVE-2026-18221]	https://www.ibm.com/support/pages/node/7286186	High	5770SS1	7.6	2026-09-02
CVE-2026-17255	IBM i is Affected By Denial of Service Vulnerability [CVE-2026-17255]	https://www.ibm.com/support/pages/node/7286093	Medium	5770SS1	7.6	2026-09-02

テクノロジーリフレッシュの新機能を使ってみよう

- "CVE_INFO テーブル関数"は他のSQLサービスと同様にNavigator for iのメニューからだけではなく、SQLステートメントとして利用可能
- Navigator for iの"システム"→"SQLサービス"で400を超えるSQLサービスを検索可能で、"CVE"で名前検索すると、"サンプルSQLの実行"メニューを実行可能
- IBM ACSの"ナビゲーター要求"機能でlistenしておくと、サンプルSQLステートメントがSQLスクリプト機能にセットされ、ステートメントの変更が可能



ファイル(F) 編集(E) 検索(S) 表示(V) 接続(C) 実行(R) Explain(X) モニター(M) エディター(D) ツール(T) ヘルプ(H)			
無表題 1			
<pre> 1 -- Description: List the IBM i CVEs that have been published in the last month for 2 -- the release of the IBM i where this query is run. 3 SELECT * 4 FROM TABLE (5 SYSTOOLS.CVE_INFO() 6) 7 WHERE PUBLISH_DATE > CURRENT DATE - 1 MONTH </pre>			
CVE_ID	SCORE	PUBLISH_DATE	TITLE
CVE-2026-18341	Medium	2026-09-02	IBM i is Affected By Buffer Overflow Vulnerability [CVE-2026-18341]
CVE-2026-18221	High	2026-09-02	IBM i is Affected By Improper Authorization and Authentication Vulnerabilities in DDM / DRDA [CVE-2026-18175, CVE-2026-18175, CVE-2026-18175]
CVE-2026-18175	High	2026-09-02	IBM i is Affected By Improper Authorization and Authentication Vulnerabilities in DDM / DRDA [CVE-2026-18175, CVE-2026-18175, CVE-2026-18175]
CVE-2026-17255	Medium	2026-09-02	IBM i is Affected By Denial of Service Vulnerability [CVE-2026-17255]
CVE-2026-18887	Medium	2026-09-01	IBM i is Affected By Sensitive Information Exposure Vulnerability in PASE [CVE-2026-18887]
CVE-2026-18858	Low	2026-09-01	IBM i is Affected By Obtaining Sensitive Information Vulnerability in OpenSSH [CVE-2026-18858]
CVE-2026-18567	Medium	2026-09-01	IBM Db2 Mirror for i is affected by multiple vulnerabilities [CVE-2026-18567, CVE-2026-16660, CVE-2026-17483]
CVE-2026-18078	Medium	2026-09-01	IBM i is Affected By Denial of Service Vulnerability in Save Restore [CVE-2026-18078]
CVE-2026-17483	Medium	2026-09-01	IBM Db2 Mirror for i is affected by multiple vulnerabilities [CVE-2026-18567, CVE-2026-16660, CVE-2026-17483]
CVE-2026-17470	Medium	2026-09-01	IBM i is Affected By Denial of Service Vulnerabilities in Line Printer Daemon [CVE-2026-17470, CVE-2026-17469]
CVE-2026-17469	Medium	2026-09-01	IBM i is Affected By Denial of Service Vulnerabilities in Line Printer Daemon [CVE-2026-17470, CVE-2026-17469]
CVE-2026-17272	High	2026-09-01	IBM i is Affected By a Denial of Service in HTTP Server [CVE-2026-17272]
CVE-2026-16660	Medium	2026-09-01	IBM Db2 Mirror for i is affected by multiple vulnerabilities [CVE-2026-18567, CVE-2026-16660, CVE-2026-17483]
CVE-2026-18076	Medium	2026-08-31	IBM i is Affected By Multiple Vulnerabilities in Debug Server
CVE-2026-18073	Medium	2026-08-31	IBM i is Affected By Multiple Vulnerabilities in Debug Server

今後のIBM i 関連イベントの予定 (IBM主催 – 通年開催分)

時期	セミナー名	内容	URL等
通年開催	IBM てくのサロン	IBMユーザー向けWebサロン。 毎月第二木曜日16時開催	https://ibm.biz/tsalon_home 
通年開催	IBM i Club	IBM i ユーザーコミュニティー	https://ibm.biz/ibmiclub
通年開催	IBM i リスキリングカレッジ	IBM i の最新スキル習得	過去ビデオ↓ https://ibm.biz/reskill 
通年開催 (本年度募集終了)	IBM i RiSING 若手コミュニティー	IBM i 若手コミュニティー。 年末-年初に来年度募集を予定。	https://ibm.biz/~g4atPusWn

予定は変更となる可能性があります。

IBM i 関連情報 – 1) 情報サイト (2026/06/24 更新)

IBM i ポータル・サイト

<https://ibm.biz/ibmijapan>

i Magazine (IBM i 専門誌。春夏秋冬の年4回発刊)

<https://www.imagazine.co.jp/IBMi/>

IBM i 情報サイト iWorld

<https://ibm.biz/iworldweb>

IBM i 関連セミナー・イベント

<https://ibm.biz/powerevents-j>

保存版「これから使う人のためのIBM i入門ガイド」 (全42章)

<https://www.imagazine.co.jp/imagazine-7071/>

IBM i 製品とサポートのロードマップ

<https://ibm.biz/ibmiroadmap2025>

IBM i 7.6 技術資料 (英語版)

<https://www.redbooks.ibm.com/abstracts/sg248588.html>

IBM Power ソフトウェアのダウンロードサイト (ESS)

<https://ibm.biz/powerdownload>

Fix Central (HW・SWのFix情報提供)

<https://www.ibm.com/support/fixcentral/>

IBM My Notifications (IBM IDの登録 [無償] が必要)

「IBM i」「9105-41B」などPTF情報の必要な製品を選択して登録できます。

<https://www.ibm.com/support/mynotifications>

IBM i 各バージョンのライフサイクル

<https://www.ibm.com/support/pages/release-life-cycle>

IBM i 以外のSWのライフサイクル (個別検索)

<https://www.ibm.com/support/pages/lifecycle/>

IBM Power Virtual Server 情報

<https://ibm.biz/pvsjapan>

IBM i 関連情報 – 2) スキル関連サイト (2026/06/24 更新)

月イチIBM Power / SW情報セミナー「IBM てくのサロン」
<https://community.ibm.com/community/user/blogs/minobu-yoshikawa/2026/03/16/techno-salon>

IBM i 関連セミナー・イベント
<https://ibm.biz/powerevents-j>

IBM i リスキリングカレッジ
<https://ibm.biz/ibmireskill2025>

IBM i Club (日本のIBM i ユーザー様のコミュニティー)
<https://ibm.biz/ibmiclubjapan>

IBM i RiSING - IBM i 若手技術者コミュニティー
<ご参考> 2025年度まとめ
<https://qiita.com/gomAnomalocaris/items/20d9179f48a55fd58bc5>
<ご参考> 2024年度まとめ
<https://qiita.com/gomAnomalocaris/items/3ba6d0bb2d6c61a7a581>

IBM TechXchange Powerユーザーコミュニティー (日本)
<https://ibm.biz/ibm-power-user-community>

世界最大のIBM i ユーザーコミュニティー COMMON USA
日本のユーザー様・パートナー様もご加入いただけます
<https://www.common.org/>

IBM i 研修サービス (i-ラーニング社提供)
<https://www.i-learning.jp/service/it/iseriess.html>

IBM i 研修サービス (ティアンドトラスト社提供)
<https://www.tat.co.jp/cor/COR420P.php>

IBM i 研修サービス (クレスコ・ジェイキューブ社提供)
<https://www.cresco-jcube.co.jp/business/j-cube-academy>

IBM i 研修サービス (ソリューション・ラボ・ジャパン社提供)
<https://www.slj-net.co.jp/sustainable-solutions/rpg/>

IBM i 研修サービス (ソルパック社提供)
<https://www.solpac.co.jp/service/powersystems/TrainingService/>

IBM i 関連情報 – 3) オンデマンド・セミナー (2026/06/24 更新)

IBM i Essentials 2026 Spring オンデマンド・セミナー

<https://video.ibm.com/recorded/134795115>

IBM i 新時代を切り開く IBM Bob お披露目Webセミナー

<https://video.ibm.com/recorded/134761370>

IBM i Advantage 2025 オンデマンド・セミナー

<https://ibm.biz/ibmiadvantage2025>

IBM i World 2025 オンデマンド・セミナー

<https://ibm.biz/ibmiworld2025>

IBM i Advantage 2024 オンデマンド・セミナー

<https://ibm.biz/ibmiadvantage2024video>

IBM i World 2024 オンデマンド・セミナー

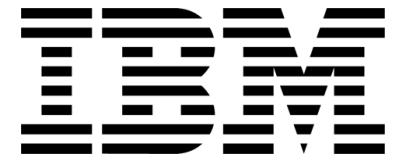
<https://video.ibm.com/recorded/133917616>

IBM i World 2023 オンデマンド・セミナー

<https://ibm.biz/ibmiworld2023>

IBM i World 2022 オンデマンド・セミナー

<https://video.ibm.com/recorded/132423205>



ワークショップ、セッション、および資料は、IBMによって準備され、IBM独自の見解を反映したものです。それらは情報提供の目的のみで提供されており、いかなる読者に対しても法律的またはその他の指導や助言を意図したのではなく、またそのような結果を生むものでもありません。本資料に含まれている情報については、完全性と正確性を期するよう努力しましたが、「現状のまま」提供され、明示または暗示にかかわらずいかなる保証も伴わないものとします。本資料またはその他の資料の使用によって、あるいはその他の関連によって、いかなる損害が生じた場合も、IBMは責任を負わないものとします。本資料に含まれている内容は、IBMまたはそのサプライヤーやライセンス交付者からいかなる保証または表明を引き出すことを意図したものでも、IBMソフトウェアの使用を規定する適用ライセンス契約の条項を変更することを意図したものでもなく、またそのような結果を生むものでもありません。

本資料でIBM製品、プログラム、またはサービスに言及していても、IBMが営業活動を行っているすべての国でそれらが使用可能であることを暗示するものではありません。本資料で言及している製品リリース日付や製品機能は、市場機会またはその他の要因に基づいてIBM独自の決定権をもっていつでも変更できるものとし、いかなる方法においても将来の製品または機能が使用可能になると確約することを意図したものではありません。本資料に含まれている内容は、読者が開始する活動によって特定の販売、売上高の向上、またはその他の結果が生じると述べる、または暗示することを意図したものでも、またそのような結果を生むものでもありません。パフォーマンスは、管理された環境において標準的なIBMベンチマークを使用した測定と予測に基づいています。ユーザーが経験する実際のスループットやパフォーマンスは、ユーザーのジョブ・ストリームにおけるマルチプログラミングの量、入出力構成、ストレージ構成、および処理されるワークロードなどの考慮事項を含む、数多くの要因に応じて変化します。したがって、個々のユーザーがここで述べられているものと同様の結果を得られると確約するものではありません。

記述されているすべてのお客様事例は、それらのお客様がどのようにIBM製品を使用したか、またそれらのお客様が達成した結果の実例として示されたものです。実際の環境コストおよびパフォーマンス特性は、お客様ごとに異なる場合があります。

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Db2、Rational、Power、POWER8、POWER9、POWER10、AIXは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。

他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。

現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、およびPentium は Intel Corporationまたは子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Microsoft Excel、Windows NT および Windows ロゴは Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標です。

UNIXはThe Open Groupの米国およびその他の国における登録商標です。

JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。